

## 平成23年度予算編成方針

平成21年度決算は、主要基金を取り崩すことなく、実質収支の黒字を確保するとともに、経常収支比率92・8%をはじめ、各種財政指標は改善した。これは、リーマン・ショックによる市税等の減収を臨時財政対策債等の赤字特例債でカバーしたことが要因である。市債残高に占める赤字特例債の割合が45%にも及び本来の地方債制度を逸脱していると言わざるを得ない状況にある。また、平成22年度普通交付税は近隣市が交付団体に転落する中、本市は大阪府内都市で唯一の不交付団体となった。これは、たばこ税増収分が大きな要因である。これらのことから、表面的には摂津市の財政状況は改善し、財政力の強い団体であると見える。しかし、本市財政の中身を分析すると、歳入不足を市債発行で補う構造であり、下水道事業債や赤字特例債の償還など不交付団体がゆえに類似団体に比べ大きな財政上の足かせとなっている。

平成23年度は、第4次総合計画の初年度である。まちづくりの7つの目標を実現するためには、持続可能な安定した財政が必要である。①第4次行財政改革実施計画を着実に実施すること、②既存事業の経費についてすべてを見直し、徹底した経費削減に努めること、③新規、拡充事業については、事業の再構築などにより、代替財源を確保すること、④歳入については、受益者負担の原則を再認識し、適正額の確保に努めること、以上4点を基本方針とする。

市長就任以来、「人間基礎教育」を、まちづくりのテーマとして、私の政治哲学として取り組んできた。摂津市というコミュニティに関わるすべての人に対し「思いやり」「奉仕」「感謝」「あいさつ」「節約」5つの心を育むよう旗を振り続けてきた結果、職員のみならず市民各層に浸透し、地域アイデンティティが醸成されつつあると認識している。第4次総合計画のキーワードは「協働」である。人と人とのつながりを大切にし、コミュニティを広げていける「人づくり」が重要である。年内には人材育成実施計画が作成される。各部局が計画を着実に実施し、「協働」を担う人材を育成するよう指示する。

これまで、南千里丘まちづくり事業、JR千里丘ガード拡幅事業、十三高槻線整備事業など摂津市の骨格となるハード整備に邁進してきた。吹田操車場跡地整備、阪急連立事業など、まちづくりの課題は山積しているが、ここで一旦立ち止まり、ソフト事業に目を向けたいと考えている。

平成23年度予算編成にあたり、各部局長の重点化プレゼンテーションを聴取し、3役で議論を行なった。来年度予算では「人間基礎教育」の更なる進展を目指すとともに、「環境」「健康」「市民活動」の3点を重点化する。

本年、摂津市駅、コミュニティプラザが開業し、南千里丘の新しいまちづくりが始まった。まちづくりの基本コンセプトである「環境」「健康」にコミュニティプラザの目的である「市民活動」を加え、3つの取り組みを全市的に広げたいと考えている。

第一に「環境」である。現在、地球温暖化防止地域計画の策定作業が行なわれており、全市的に取り組みを展開していかなければならない。このため、(仮称)環境基金を創設したいと考えており、各部の業務を環境の視点で見直し、オール摂津で知恵をだしてほしい。

第二に「健康」である。今年の夏は、100年に1度といわれるほどすさまじい猛暑であった。昨年新型インフルエンザも市民にとって大きな脅威となった。市民と行政とが近い摂津市だからこそ、これらに機敏に対応できたと考えている。「健康」についても保健福祉部だけでなく全庁的に取り組んでいかなければならない課題である。

第三に「市民活動」である。これは、「人づくり」にも関わるが、新総合計画の大きなテーマである「協働」を着実に実施したいと考えている。自治会活動やボランティア活動、生涯学習活動など市民による幅広い活動が盛んであることは、公益的な市民活動が促進される上で大切な基盤である。生活環境部が支援に関する基本方針の策定を予定しているので、全庁的な取り組みをお願いする。

## 1 基本的事項

- ・ 平成23年度の予算要求は下記により要求すること。
  - ① 既存の事務事業については、事業の「有効性」・「効率性」・「必要性」および「緊急性」の視点から抜本的に見直し、前年度当初予算額以下の要求額とすること。  
複数の部課で類似の事業を実施している場合は、関係部課間で十分に意見調整を行い、事業を統合するなどにより効率性の向上を図ること。
  - ② 新規事業等政策経費は事務事業評価シートを政策推進課に提出することとし、財源配分の観点から代替財源の有無を提示すること。
  - ③ 平成23年度は、行財政改革第4次実施計画の2年目である。第4次実施計画の項目について着実な実施を確保する要求とすること。
- ・ 当初予算は、その年度の全ての歳入歳出を計上する「総計予算主義」の原則で編成するものである。したがって法令等の改正を含め、見込み得る全ての歳入歳出について関係機関と十分連絡調整して予算計上することとし、年度途中の増額補正措置は、原則として行わないこと。
- ・ 財政の健全性、効率性に留意するとともに、国・府・市間の経費の負担区分については法令等に準拠して明確化をはかり、超過負担とならないよう財政秩序の確立に努めること。

## 2 歳入に関する事項

歳入の根幹である市税収入は、平成21年度決算においては、景気悪化の影響により法人市民税が減収となったことなどにより、184億円となった。平成22年度の市税収入についても当初予算で169億円であり、景気の回復状況からみて、市税を取り巻く環境は依然厳しいものとなっている。したがって、使用料や手数料などの受益者負担を求めるべき性質の事業実施については、費用に見合う料金設定となっているか検証し、積極的に自主財源の確保を図り、適正額を計上すること。また、各種滞納金の徴収に努めること。

- ・ 使用料、手数料については受益者負担・利用者負担の原則に基づき、費用対効果の検討を行い、料金改定後3年を経過したものについては適正な料金となるよう改定を行うこと。また、料金設定の基本方針を明確にすること。
- ・ 国府支出金については、漫然と従来の実績を計上することなく、関係機関と連絡を密にし、最新の情報により確実性のある額を計上すること。特に府支出金については、大阪府財政構造改革プラン（素案）の影響を受けることも予想されるので、府ホームページや大阪府原課からの情報収集に努めること。
- ・ 将来の公債費抑制を図るため、財源を市債に求める事業を予算要求する際は、必ず事前に財政課と協議すること。

### 3 歳出に関する事項

平成23年度の予算要求は、行財政改革第4次実施計画の項目について、着実な実施を確保する要求とすることを原則とする。また、その他の事業についても、事業単位で、廃止・統合・再構築も視野に入れた検討を行うこととし、経常的経費については、費目ごとに下記の観点から検討し、歳出予算額の抜本的な見直しを行うこと。

#### ○平成23年度経常経費について

経常経費をできる限り抑制し、財政の健全化に努めなければならない。そのため、平成23年度経常経費においては、各課経常経費ヒアリング結果を要求限度とし、可能な限り削減するものとする。

なお、各費目について下記の方針に則って、予算要求を行うこと。

#### ・ 共通事項

報償費(報酬に準じるもの)、委託料(人件費の要素の強いもの)については、後年度において経費の縮減を図ることが難しいので増額を行わないこと。

賃金、旅費等見積もり単価の設定のあるものについては、予算積算資料による単価とする。

各イベント開催に要する経費については、事業の効率化を図るとともに、事業効果を再度精査した上で、経費節減に努めること。

- **人件費**

時間外勤務手当は、事務の見直しを行うことにより削減を図り、総時間数を前年度予算93%以内とすること。

- **賃金**

過去の実績にとらわれず雇用の必要性について再検討し、繁忙期に限定するなど雇用人数の削減、雇用期間の縮減を図る。

- **報償費**

経常経費ヒアリング結果を限度とする。

記念品・啓発物品は、事業目的を明確にしたうえで、配布物品の見直しおよび配布個数の見直しを行うこと。

各種講座については、講座開催目的を明確にするとともに、講師謝礼については、金額を再検討し適正な単価設定を検討すること。

- **旅費**

人事課所管予算を除き、市が実施または関与する研修や視察は日帰りとする。

定例的な総会や大会で宿泊を要するものは、本市が役員や他市の代表となっていない場合、出席を自粛する。出席する場合でも、大会出席の意義について再度検討すること。

- **食糧費**

会議賄いは原則廃止する。

- **消耗品費**

経常経費ヒアリング結果を限度とする。

特に事務用消耗品については、再利用推進により経費節減に努めるなど内容を精査した上で、要求すること。

- **印刷製本費**

経常経費ヒアリング結果を限度とする。

白書、年鑑などの各種刊行物は、ホームページ上での掲載を基本とし、印刷については保存用のみとする。

ポスター、チラシは庁内印刷、外部発注を問わず精査すること。また、外部発注は計画的に行うこと。外部発注を予定しているものは、取りまとめて入札を行うので、発注時期を積算根拠に明示すること。

- **修繕料**  
必要最小限にとどめ増加を抑制すること。
- **委託料**  
経常経費ヒアリング結果を限度とする。  
原則として入札により契約すること。また、長期継続契約以外の委託については、委託の仕様の見直しや契約単価の引き下げにより契約金額の削減を図ること。
- **扶助費**  
決算見込額、対象者人口等を精査し必要額を計上すること。この場合年度末において不用額が多額にならないよう精査すること。  
また、市単独の扶助費については、事業効果を検討したうえで、予算要求を行うこと。特に、現金給付については、十分に検討すること。
- **備品購入費**  
原則として既存の備品の老朽化による買い替えのみとする。
- **負担金**  
各種団体に対する負担金については、行政目的達成のための必要性、負担金額の妥当性を検討し、必要性・妥当性を欠くものは予算計上を見送る。
- **補助金**  
団体補助については、事業効果の明確化の観点から、順次事業補助への転換を図ること。事業補助への転換が実施できない場合、直近の決算における繰越金の50%を削減する。
- **報酬、時間外勤務手当、賃金について**  
人事課査定とする。
- **OA機器の新規及び更新について**  
情報政策課のヒアリングを受けること。  
なお、機器の更新は5年間のリース終了後2年間使用した後に要求する。

#### 4 特別会計に関する事項

特別会計の運営は「会計独立の原則」に立ち、その健全性を保持しつつ事業目的を達成するための合理的管理が必要である。その主体性を失うことなく、いたずらに一般会計からの繰入金に依存することのないよう認識を新たにし、積極的に歳入の確保を図り、健全経営に努めること。